

仙台の思い
高田 生織 (平成18年卒)



不惑を過ぎて余年、東京に来て9年が経ちました。人生の3分の2を生まれ故郷、仙台で過ごした事になります。

季節の変遷をはっきりと感じられるのは9月以降で、爽やかな秋空がしばらく続いたあと、頻に突き刺すような寒風が吹き始めます。冬は東京に比べてかなり長く、桜が咲いてからも冷え込む日が続きますが、この長々と続く季節を楽しいものに変えてくれるのがスキーです。朝5時、寝ぼけ眼のまま後部座席に乗り込み、一路真っ暗な道を飛ばして雪山へ。山形蔵王、田沢湖、八幡平、雫石、安比、夏油など、仙台から2、3時間も車を走らせれば、東北には魅力的な山が沢山あります。山形蔵王の黒姫コースは適度な難易度で、同じリフトに何度も乗っては滑って、を繰り返しま

した。河北新報には積雪情報が掲載されており、毎朝紙面を確認していたことも懐かしく思い出されます。寒い季節にわざわざ寒い所に行くなんてと他の兄弟はすぐ不参加となり、最後まで父と2人でスキーに行っていたのは私だけでした。いまだスキーを続けているのも私だけで、幼少期から刷り込まれた東北人としての血が騒ぐからなのかと最近になってようやく納得したところでもあります。父は東京の出身で、都立青山高校から東北大学歯学部へ進学しました(昭和47年卒)。旧歯科医師会館のダンスパーティーで母と出会い、現在に至ります。開業して48年、平成5年に鶴ヶ谷から移転し、コロナ禍を経て今も泉区の住宅地で歯科診療を続けています。昨春、子供達(9歳、5歳)がスキーデビューを果たしました。私自身が教わったように、記憶を辿りながら子供達に手ほどきを始めています。今年は暖冬で消化不良気味ですが、バジッテスト1級合格を目標に親子で滑りに磨きをかけたいと思っています。

縦にふりませんでした。生来右耳が全く聞こえない私に、何があっても継続させようと心に決めていたのかもしれない。今では辞めずに継続させてもらった事に感謝しています。6年間の個人レッスンを経て、仙台ジュニアオーケストラが結成されると同時に入団、17歳までほぼ毎週末、青葉区旭ヶ丘駅にある青年文化センターで練習に励みました。仙台フィルハーモニー管弦楽団員のご指導で、年2回の定期演奏に加え、岡山、新潟、北九州Jr.オーケとの合同公演もありました。個人演奏とは全く異なり戸惑う事も多々ありましたが、充実した時間を過ごしました。

最近はずっと勤務の傍ら、子供のPTAサークル活動募集のタイミングで親子アンサンブルサークルを立ち上げました。ホルンとバイオリンの2名でスタートし、現在はピアノが加わったことで演奏に華やかさが増えています。月に2回ほど小学校の音楽室に集い、コロナ禍で失われていた、リアルに場を共有することの楽しさ・大切さを再認識している所です。近々都内高齢者施設での初披露も決まっております。仕事と家庭に支障のない程度に続けていきたいと思っています。

最近はずっと勤務の傍ら、子供のPTAサークル活動募集のタイミングで親子アンサンブルサークルを立ち上げました。ホルンとバイオリンの2名でスタートし、現在はピアノが加わったことで演奏に華やかさが増えています。月に2回ほど小学校の音楽室に集い、コロナ禍で失われていた、リアルに場を共有することの楽しさ・大切さを再認識している所です。近々都内高齢者施設での初披露も決まっております。仕事と家庭に支障のない程度に続けていきたいと思っています。

関東良陵だより

令和六年五月発行
(第五十七号)

東北大学関東良陵同窓会

春季総会・懇親会の案内

本年の同窓会総会・懇親会を下記の通り開催いたします。今回も、総会と女性医師部会の同時開催とし、総会に引き続いてお二人の講師に講演をお願いしております。成育医療研究センターの堀川玲子先生(1983年卒)には小児内分泌と国際協力に関するお話しいただきます。これらの分野に対する熱い思いを伺えるものと思えます。続いて、山梨大学医学部法医学の安達登先生(1992年卒)の「DNAからみた縄文人」と題するお話しを伺います。古代日本人のルーツに迫るロマン溢れるお話をお聞きできるのではないかと思います。お二人のご講演の抄録は次面でご紹介しております。

会場として、昨年と同じ外国特派員協会(いわゆる外国人記者クラブ)を用意しました。講演の後の懇親会では着席で、外国人特派員が納得する味をお楽しみ下さい。

懇親会では、お食事とお飲み物に加えて同窓の皆様の間での交流をお楽しみいただきたいと思います。そのため、卒業年にはこだわらず、すべての参加者に1分間のスピーチをお願いして懇親を深めたいと思います。

多数の同窓の皆様とお会いできることを楽しみにしております。

東北大学良陵同窓会
関東連合会・会長・飯野 正光 (昭和51年卒)

総会・懇親会プログラム

- 一、期日 令和6年7月6日(土)
- 二、場所 外国特派員協会
千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビル5階
電話 03-3221-1131
- 三、受付開始 午後4時より
- 四、総会 午後4時30分
会長挨拶・事務局長報告など
- 五、特別講演 午後4時45分より
「小児科と内分泌と国際協力」の道
—夢を持ち続けて—
堀川玲子先生(国立成育医療研究センター内分泌代謝科・診療部長)
「DNAからみた縄文人」
安達登先生(山梨大学医学部法医学講座・教授)
午後6時15分開宴
- 六、懇親会 1万円
- 七、会費
- 八、出席申込 同封の振替用紙を用いて会費とともにお申込み下さい。連絡用のメールアドレスをお持ちでしたらご記入をお願いします。

(年会費納入のお願い 令和6年度会費のご納入も第四面に記載要領にてお願いします。)

東北大学良陵同窓会
関東連合会 東京支部
 〒121-0831
 東京都足立区舎人3-11-26
 株式会社 同窓会事務局
 TEL: 0120-10-9899 (内線 172)
 FAX: 0120-10-9184

略歴
 1998年 仙台育英学園高等学校特進コース卒業
 2006年 聖マリアンナ医科大学医学部卒業、仙台市立病院外科系研修医
 2008年 東北大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室入局、宮城県大崎市民病院、仙台医療センター、東北厚生年金病院、イタリア・グルッポオトロジー、気仙沼市立病院、東京女子医科大学東医療センターに勤務
 2018年 東北大学大学院 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 修了
 2019年 知音会 かなりあクリニック 院長

特別講演 1

「小児科と内分泌と国際協力」
の道 ―夢を持ち続けて

堀川 玲子



医学部受験の際、ある大学の小論文のタイトルが「道」だった。私の家は代々医者だったが、父は熱帯医学の研究者でもあり、東南アジアによく出かけていたこと、岩村昇先生の「共に生きる」を読んだことから、漠然と発展途上国の医療に貢献したい、特に小児医療に貢献したいと思うようになったので、小論文にはそのようなことを書いた。これが私が医師となつて目指したい「道」である、と。大学に入り、第二内科の講義が面白く、内分泌を専門に勉強したい、と思った。大学卒業のギリギリまで内分泌内科に進もうと思っていたが、初志の小児科医になりたいという思いも捨てきれず、いっそ小児内分泌を

やろう、と決めた。卒業後、様々な出会いを経て、東京女子医大の内科学大学院で内分泌の研究を行い、その後小児科に戻って国立小児病院から国立成育医療研究センターに至るまで、内分泌の臨床研究に勤しんできた。途中、憧れていた高名な内分泌医の元への留学の機会にも恵まれた。海外協力の夢は持ち続けてはいたが、育児に追われ現地での活動は難しいと思っていた時に、これも偶然の機会

米国 University of Virginia
Postdoctoral Research Fellow
1996年
国立小児病院内分泌代謝科 医員
2002年
国立成育医療センター総合診療部
思春期診療科 医長
2004年
国立成育医療研究センター内分泌代謝科 医長
2018年
国立成育医療研究センター内分泌代謝科 診療部長 現在に至る

略歴
1983年
東北大学医学部卒業
1983年～1985年
国立病院医療センター(現国立国際医療研究センター)小児科研修医
1989年
東京女子医科大学大学院修了
1989年
国立小児病院内分泌代謝科レジデント
国立小児医療研究センター内分泌研究室 研究員
1994年

特別講演 2

DNAからみた縄文人

山梨大学医学部法医学講座

安達 登



近年、縄文人についての遺伝子解析が進み、この集団が世界的にみて

も極めて独特な遺伝的特徴をもっていることが明らかになってきた。例えば、ミトコンドリアDNAのハプログループ(遺伝子型の系統樹上の名称)では、N9bとM7aの2種類が突出した高頻度であることが分かった。両者に共通する特徴は、分布地域が日本の周囲にほぼ限局し、縄文文化のそれとおおよそ一致することである。個別の特徴としては、N9bは北日本の縄文人に50%以上の高頻度でみられるが、南下するに従って頻度が減少してゆく。一方、M7aは北海道で2%以下と頻度が低く、東北地方において30%以上に頻度が急上昇し、西日本では約80%がこのハプログループを持つことが分かってきた。このN9bとM7aの他、日本列島以外では全く観察されないN9のサブタイプも存在するなど、ミトコンドリアDNAからみた縄文人は極めて独特であり、かつ、日本列島内での地域差も大きかった。

核ゲノム分析においても縄文人は遺伝的に極めて特徴的で、世界のどの人類集団とも大きく異なることが証明された。しかし、ミトコンドリアの場合と異なり、遺伝的地域差はほとんどみられなかった。これは縄文人のゲノム分析の結果を現代人集団と比較したことが原因と考えられ、

縄文集団のみを、個体数、分析地域を増加させて比較すれば、地域差についても明らかになってくることが期待された。



小椋真佐子先生からバトンを引き継ぎました戸田と申します。この春より、地元の静岡県立こころの医療センターに着任しました。静岡県は、結構東北大に人材を輩出しております。仙台の北國的イメージが、南国静岡県民の心をくすぐるのでしようか。

さて、精神科医は最終的に「自分の病」の研究をするに至るとよく(皮肉半分で)言われます。私の場合は、ドンピシャです。前任の昭和大人勤務以来、注意欠陥多動性障害(ADHD)を専門とするようになりましたが、同時に、自分も同類であるとの病識を深め、自虐ネタで患者さんと話をする機会が増えました。ADHDは不注意、多動、衝動性の3大症状が有名です。しかし、他にも様々な特性があります。例えば、感覚過敏、過集中、飽きっぽさ、新奇性への強い欲求、時間のルーズさ、睡眠覚醒リズムの乱れなどです。身体併存症に

も特徴があり、喘息やアトピー、過敏性腸症候群、起立性調節障害、肥満などを起こしやすいことが知られています。私は幼少期、ひどい喘息持ちで忘れ物の多い子供でした。授業中ウロウロこそしませんでした。よそ見ばかりで、あまり記憶はありません。弱いのには、ジャイアンみたいな子に喧嘩をふっかけていました。触觉過敏のために、タートルネックが苦手で、必ずシャツの袖のボタンを外し、腕時計もすぐ外してしまいう傾向がありました。刺激の乏しい静岡が嫌で、子供時代から東京やら、どこか遠い国への移住を夢想しがちでした。医学部を目指したのも、国費で留学できるからです。

医者になった後は、半ば確信犯で助手留学のまま医局を辞めてアメリカで基礎研究者に転身し、7年半滞在しました。その後も研究は続けました。同じテーマでは、飽きてしまふのです。元々分子生物学専攻だったのが、今や神経生理をやっている始末。最大の弱点は、締め切りのない仕事で苦手なこと。研究者は論文がなかなか出ない時、reviewを書いて業績を繋ぎますが、私の場合、エンドレスに加筆を続け、途中で飽きて未完のまま。結局、研究者とし

ては大成できず終いでした。他方、ADHDには、リスクを恐れないため決断が早く(衝動性の裏返し)、「木より森を見るのが得意」だったり「人と違うアイデアを思いつく」強みもあります。自分も、緻密な相手と組むと成功した記憶があります。先輩と同僚には恵まれました。発達障害とハサミは使いようです。お近くに私みたいな若手がいたら、見捨てず可愛がつてあげてください。

略歴
1985年3月31日
静岡県立浜松北高校 卒業
1986年4月1日
東北大学医学部 入学
1992年3月31日
同上 卒業
1992年4月1日
東北大学大学院医学系研究科博士課程 入学(外科学専攻・整形外科学)
1996年3月31日
同上 修了(博士(医学))

1996年4月
東北大学医学部法医学講座 助手
1999年9月
東北大学大学院医学系研究科人体構造学分野助手
2003年4月
同上 講師
2006年5月
山梨大学医学工学総合研究部法医学講座 教授(現在に至る)

リレーエッセー

ADHDと私

戸田 重誠(平成30年卒)

略歴
1991年
東北大学医学部卒業
1991年
都立松沢病院 臨床研修医
1993年
東北大学病院 精神科医員
2000年
東北大学大学院医学系研究科博士課程修了
2000年
東北大学病院 精神科助手

2000-2008年
サウスカロライナ州立医科大学 留学～研究助教
2008年
金沢大学医学部精神行動科学講座 講師
2017年
昭和大学医学部精神医学講座 准教授
2024年
静岡県立こころの医療センター 研究部長